

## 2018Japan National Team Report ” コーチ ”



報告者氏名	白石潤一郎
大会名	18Worlds
開催地	キプロス
大会期間	18' August 27 – September 6

- 帰国後1ヶ月以内に、JODA チームでまとめた上、海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
  1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
  2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
  3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について
  1. このレポートを補足する資料として必要です(文中に貼り付けて下さい)
  2. 他国OP艇を接近して撮影する際には、必ず相手国の選手、コーチの了解をとって下さい

チャーター艇 メーカー	Blueblue*5				
----------------	------------	--	--	--	--

気象について	非常に安定していた。 風速に変化はあるものの 11 時から 13 時にサーマルが 180 度から吹き始め、風速が上がりながら時間とともに 230 度まで振るといふ事前情報通りの気象
海面(湖面)の特徴や 風の傾向	水深が浅く吹き始めは非常にフラット、時間の経過とともに風速が上がりチョッピーな波が立ってくる。 潮流はこの期間中レースの時間帯は西から東の向きに流れていた、潮流が強い時間帯は岸沿い(右)の海面は水深が極端に浅く潮流の影響を考える必要があった。
帆走指示書内容で特記 事項	特になし
コーチボートについて	5.2m リブ、50 馬力 4 ストエンジン、トルコとのシェア、非常に快適であった。

以下、日本チームより上位の選手、国について記入して下さい

選手の特徴、体格	2名は40キロちょっと、1名は約45キロ、2名は50キロオーバー
機装品について	特になし
セッティング等	国内でセールトレーニングをする時間を取れていたのが理想のシェイプを出すことができていたものの、軽風時は完全にスピード不足セットアップについてさらなる研究が必要。
海上での練習方法	事前期間に約1週間のプレレースとセーリングを行なった。
セーリング技術	風速が14ノット以上の場合には世界で戦えるレベルがあるが、10ノット以下の場合状況に応じたセーリング技術、スピードが足りない
戦術、戦略など	軽風時の基本的なスターティング、マニューバリング、ボートスピードが足りないのが、戦略通りにゲームを進める事が困難であった。
日本選手が劣っていること	軽風時の基本技術、ボートスピード
日本選手が勝っていること	14ノット以上のボートスピード
日本チームとしての課題	ワールド派遣チームについては軽風から強風まで高いレベルで戦える技術とスピードの獲得 5人全員がゴールドフリートに残るための選手選考とチーム作り OP協会ナショナルチーム専属コーチの配属
JODAへの要望	NT専属コーチの選出、配属
その他	これまで4年、4回にわたりワールド派遣チームの帯同コーチを拝命いただきその責を達成するためにOP協会、ご父兄、私の所属企業等多くの方々NO協力を得ながらワールドにトライしてきましたが、私の力不足の結果ワールドにおける選手たち大きな可能性を発揮する環境整備と技術の取得を提供できなかったことに大きな責任を感じております、また私自身のスケジュールの調整が難しくなっていることもあり今回を最後一旦帯同コーチの役を降りさせていただきます。来年もまた国内には素晴らしい選手達がたくさんいます。セーリング技術のサポートは積極的させていただきます。 以上よろしく申し上げます。

ご協力ありがとうございました

JODA 海外派遣委員会